

第43回 経営協議会 議事要録

日 時 平成25年1月31日（木）13時35分～15時00分

場 所 事務局第二会議室

出席者 宮田亮平 学長、畑中裕良 理事、井橋光平 理事、
池田政治 美術学部長、植田克己 音楽学部長、堀越謙三 大学院映像研究科長、
石田義雄 委員、中村胤夫 委員、福井俊彦 委員、高階秀爾 委員、
遠山敦子 委員

陪 席 監事：金井 満 監事

渡邊健二 理事、北郷 悟 理事、宮廻正明 学長特命・社会連携センター長、
多田羅迪夫 学長特命・演奏芸術センター長、大角欣矢 附属図書館長、
関 出 大学美術館長、三田村有純 学長特別補佐

欠席者 滝 久雄 委員

監事：中島尚正 監事

○ 議長から審議に先立ち、高階秀爾委員の文化勲章受章について報告があった。

議題

1. 退職手当の支給水準引下げについて

議長から標記のことについて提案があり、畑中理事から資料に基づく説明があった後、審議の結果、本件に関する規則改正手続きが議長に一任された。

2. その他

○ 議長から、「卒業・修了作品展」について報告があった。

○ 植田音楽学部長から、公開による卒業及び修了演奏について報告があった。

報告及び連絡事項

1. 東日本大震災により被災した平成25年度東京芸術大学入学志願者の検定料免除に関する要項の制定について

標記のことについて、渡邊理事から資料に基づき報告があった。

2. 平成24年度補正予算について

標記のことについて、畑中理事から資料に基づき報告があった。

・ 外部委員から、予算の有効活用を期待する旨の発言があった。

- ・ 外部委員から、国を司る方々も経済優先ではなく、戦略としての文化芸術を改めて認識してほしい旨の発言があった。

3. 平成25年度経営協議会開催日程について

標記のことについて、総務課長から資料に基づき報告があった。

その他：（ご助言、ご提言等）

本学を巡る諸情勢

- 冊子「卒業・修了作品展」について
 - ・ 池田美術学部長から、机上資料に基づき報告があった。
- 冊子「平成24年度 博士審査展 作品・論文要旨集」について
 - ・ 池田美術学部長から、机上資料に基づき報告があった。
- 東京藝術大学将来計画（クロッシングを背景に）と上野文化ゾーンの将来について
 - ・ 北郷理事から、別途配布資料等に基づき報告があった。
- 五芸術大学長懇話会、及び五芸大震災シンポジウムについて
 - ・ 渡邊理事から、報告があった。
- 近藤誠一文化庁長官と語る会「白熱教室」第2弾について
 - ・ 北郷理事から、机上資料に基づき報告があった。
- 宮田学長のテレビ番組「アート・ビートスペシャル」出演について
 - ・ 議長から、報告があった。
- 夏目漱石の美術世界展について
 - ・ 関大学美術館長から、机上資料に基づき報告があった。
- 関大学美術館長から、東京藝術大学コレクション展について報告があった。

学外委員からの主な意見

- 美術と音楽がコラボした展覧会などは素晴らしい。
- 美術と音楽だけでなく、これからは分野や世代を超えた融合を提案していくと良い。それには、教育のあり方などが大きな課題となる。
- 優れた学生、才能を持った人材を、どう伸ばしていくかということに日本の将来が掛かっている。
- 一般論としての大学に、藝大はあまりとらわれることはないと考える。
- ここにあるクリエイトするものは、融合するものに率先して取り組んでいただきたい。
 - ・ 一例として本学と東洋文庫との協定、千住の音楽環境創造科と横浜の映像研究科との協力、芸術祭における美術と音楽の共同作業などがある。
 - ・ 工業など芸術分野以外との協力がこれからの課題となる。
- 大学は融合のチャンスを作り、大学を出た者たちが融合のためのネットワークなどを組み、より大きな仕事ができるような環境作りを、大学が用意できると良い。
- 尊厳の芸術展は素晴らしかった。もしあれが芸術作品とすれば、芸術は歴史を超えることができる。

- 日中関係は厳しい状態にあるが、芸術分野での日中交流ができると良い。
 - ・ 昨年行われた125周年のシンポジウムでは、中国側の8大学は参加はなかったが、その後は良好な関係が続いている。
- 漱石展について、音楽はもちろん国文学関係にも関わりがあり、可能であれば文学の方々とのシンポジウムなどができるとうらやまができて良いと考える。
- 三越と漱石とは関係が深く、日本橋店の屋上には漱石の石碑がある。
- 東京駅の改修が終わり、次は上野駅と考える。何かあれば藝大の意見を聞きたい。